

令和3年度 第3回 立川市スポーツ推進審議会 会議録

(基本情報)

会議名称	令和3年度 第3回 立川市スポーツ推進審議会
開催日時	令和4年3月29日(火曜日) 午後7時00分～午後8時20分
開催場所	立川市泉市民体育館 研修室
次第	1 開会 2 報告・協議 (1) 立川市第2次スポーツ推進計画(令和4年度)の取組予定 (2) 体育施設のあり方に関するアンケートについて 3 その他
資料	資料1 立川市第2次スポーツ推進計画(令和4年度)取組予定 資料2-1 体育施設のあり方に関するアンケート 資料2-2 体育施設のあり方に関するアンケート集計結果(速報値) 資料 立川体協が取り組んできたスポーツ振興と課題について(坂下副会長提供) 資料 体協かわら版73号(坂下副会長提供) 立川市体協だより「スポーツたちかわ」No.106 話題提供シート(永島委員提供)・錦町町民大ウオーキングチラシ 立川ダイスの活動(原委員提供) 話題提供シート(渡邊委員提供) たちかわ健康ポイントチラシ きらりたちかわ講座ガイド春号 vol.59
出席者	[委員] 秋山エリカ、坂下 香澄、水越 伸朗、松原 幸子、永島 康雄、原 宏樹、亀島 尚靖、渡邊 健太 [事務局] 矢ノ口 美穂(産業文化スポーツ部長)、中村 達也(スポーツ振興課長)、加藤 英樹(管理係長)、木村 誠(スポーツ振興係長)、今尾 裕紀子(スポーツ振興係)
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
担当	産業文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係 電話 042-529-8515

## 会議の内容(要旨)

### 1 開会

### 2 報告・協議

#### (1) 立川市第2次スポーツ推進計画（令和4年度）の取組予定

(スポーツ振興課長より資料1について説明)

(会長) 意見はあるか。

(会長) 1小は子どもの体力向上優秀校となったとことだが、どのような取組を行ったのか。他の小学校にも還元できるとよい。

(スポーツ振興課長) なわとび週間等の運動習慣だと聞いている。

(会長) 各学校が知っているか。校長先生にも伝えてもらいたい。

(スポーツ振興課長) 次回以降、資料に写真などもつけて紹介していきたい。

(会長) たちかわ健康ポイント事業について、市民の稼働率を上げたいと考えるならば、定員は無くした方がよいのではないか。

(スポーツ振興課長) 予算的な制約がある。本事業は3年間で3回の開催予定となっており、各1,000人、合計3,000人が対象となる予定である。第1回は6月から11月を実施期間とし、この期間にポイントを貯めて、抽選を行う。抽選の対象となるのは人数に限られるが、アプリの利用だけでもできないかを現在事業者と交渉中である。

(委員) 子どものスポーツについて スポーツではなく、体力づくりや運動能力の向上につながる活動として、プレイパークを計画に入れられないか。課をまたいだ事業となるので大変かと思う。子どもが外で遊ぶことができない。基礎体力がなくなっている。なんとか計画に取り込められないか。

(スポーツ振興課長) 場所の提供とセットになる。

(委員) 移動プレイパークもある。スポーツ振興課でもすすめてもらいたい。

(委員) 柴崎体育館を過去に利用した際に、通常の更衣室を利用することができないため更衣できる場所をお願いしたところ、応接室を利用することになった。障害のある方でも利用しやすい、家族更衣室などの設置を検討していただきたい。

(スポーツ振興課長) 基本的に老朽化対応となるが、バリアフリーの考え方を取り入れていく。参考にしていきたい。

(会長) 課題解決、コロナ禍を経ての新たな取り組みについて審議会で話しあい、計画に反映していくことになる。各委員の市民スポーツとの関わりについてもご意見を伺いたい。

(委員) 市民体育大会や体育館まつりなど、体育協会の取り組みもコロナ禍で参加者数は減っている。シニアへの取り組みの百トレ好評である。ハイキングラリーではアプリも導入し、2月にランキングをつけるという取り組みをやっている。令和元年に横浜ウォーキングポイントと同様の事業の提案をした。今回の立川健康ポイントは健康推進課が主導で行っているとのことだが、スポーツ振興課にも連携をとって取り組んでももらいたい。障害者スポーツについて体育施設のあり方ともかかわるが、(広めるために)ポッチャ協会の立ち上げも検討したらどうかと考える。

(委員) 錦町体育会では、2年町民運動会が中止となった。例年は7~800人集まる。色々な制約でできなかったが、今年度は何かやろうということで、運動会の予定日にウォーキングイベントをした。多人数で集まらないように各自治会の会館に集合として場所を分けた。信号等の見守りには安協などのボランティアもお願いした。各町会で、文字を提示して、言葉を当てるゲームやポイントをつけて賞品をもらえるようにした。距離は6kmと3kmを用意した。実際は2回程行い、歩道橋の確認や危険個所の確認を改めて行うことができた。参加者は約300人だった。

(委員) プロスポーツ連絡会でスポーツ体験会を行った。駅コンコースで、バスケのフリースロー、サッカー体験、自転車のスピードチャレンジ等、それぞれの競技の体験をしていただくことができた。プロギンギは、ジョギングしながらゴミ拾いをするというもので、グランデュオさんより声をかけていただき、ダイスの選手が参加した。地域の活動ができる機会を望んでいる。チームを知ってもらうには、一緒に活動をしたい。他のチームも同様に考えていると思う。小学校への訪問も行い、一緒にバスケをしたりしている。一緒に体を動かすことが一番関係を近づける。トライアウトは、一般公開をして多くの方に見に来てもらいたいと考えている。プロチームが身近にあることを感じてほしい。練習などを見に来てもらえるようにしたい。

- (委員) ボッチャチームとして立川3小で土曜日に練習をしている。練習場所の確保が課題となっている。学校利用の団体登録をして活動しているが、時間と場所が限られている。令和4年 関東ボッチャ選手権に4名出場し、銀メダル1名、銅メダル2名の結果となった。自身も銅メダルを獲得した。体育協会さんよりボッチャ協会設立のご意見もあったので、連携していきたい。ボッチャは障害者のスポーツのイメージがあるが、誰でもできるユニバーサルスポーツとして推進していきたい。今後のチームとしての活動予定は、6月に福島県で開催される日本ボッチャ選手権大会東日本予選でポルテ多摩として予選通過をめざしたい。課題としては、指導者、メンタル面での相談をできる人がいない。そういう人材がいたら情報提供をいただきたい。
- (委員) スポーツ推進委員としての活動について紹介したい。コロナ禍でイベントをすることができなかった。コロナ禍でもできることとして消火器ウォークをはじめた。推進委員は12町会に委員がいるので、各町会内に設置された消火器を探して、そのなかからピックアップしてポイントを決め、マップを作製した。参加者に消火器ナンバーを様式記入してもらうというものである。期間は自由で、何日かけてもよい。提出すると「あるけあるけ運動」の距離認定をする。一人でも、少人数でも参加でき、防災の観点からも、自分の地域の危険箇所をあらためて知ることができた。マップは会館等で配布をしている。各マップは1人1回までの認定で最大12回までできる。4月からはじめて秋頃から公開できた。また、3月には集まってのウォーキングができた。柴崎体育館から高幡不動までの12km、約50名の参加があった。参加者も高齢化し参加者数は減っているが、若い人や一人での参加も見られた。両方の事業をすることができた。
- (委員) スポーツはあまりしていない。自転車か散歩くらいしかしていない。昨日健康ポイントに申し込んだが申し込みできなかった。先ほどのご意見のとおり希望者みんなが参加できるとよい。似たようなサービスはあるので、アプリとしてのキャパはあるのではないかと。300人から1000人に増員したのはどのような理由か、予算的なものか。4~5年後のやり方を考える上でも、申込数などは把握しているのか。好評であるのなら市民の関心も高いということだと思う。よりよい展開ができるようにしてほしい。
- (委員) 運動があまりできていない。学校現場でも東京2020レガシーをすすめることになっている。体を動かすだけでなく精神の部分も取り組んでいきたい。自分の学校ではボランティアマインドに取り組む予定である。
- (スポーツ振興課長) 健康ポイントについては、平成30年度に開始した。当初は国民健康保険の保険者支援から運動習慣化の交付金を原資として開始した。当時は、ポイントを貯めて応募すれば全員が特典を受けとれるシステムだったため、人数は少なくしていた。申込数が多かったことから、今回からは賞品は抽選とし定員を拡大した。応募人数の把握については、詳細まではわからないが、第1次では確認していたので、今回も押さえていると思う。事業者は公募で選んでおり、今回は、横浜ウォーキングポイントにも関わっている事業者である。バージョンアップしていくことになると思う。
- (委員) フィジカルトレーニングなどを広報で紹介している。運動指導者講習会セカンドシーズンでは心理学を用いたフィジカルトレーナーとしての講座も行っている。渡邊委員の言っていた課題可決にもつながるのではないかと。日常の人間関係でも参考になるような講座である。部活動にも活かしていけるとよい。
- (会長) 令和2年度よりも令和3年度の方が、コロナ禍でもできることをやることができている。ここからやれることが増えていくきざしが見える。子どもたちがプロを見られることについて、子どもは憧れを持つとやる気になる。実施率が上がっていくと思う。ポストコロナへの準備を進めることが次の段階となる。

## (2) 体育施設のあり方に関するアンケートについて

(スポーツ振興課長より資料2について説明)

(会長) 意見はあるか。

(委員) どのような施設を見直すべきかの見直しとは施設をなくしていくということか。

(スポーツ振興課長) 両方とらえられる。利用者が少ない部分を多くするためにどうするか。体育施設のあり方を検討するにあたって、今の施設を増やすのは難しいが減らすという判断も難しい。

(会長) 施設を利用している人が回答していると思う。市民のなかで体育施設を使っているのはどれくらいの割合なのか。使わない人が使うようにするにはどうしたらいいのか考えるためには使わない人の意見も必要。使わない理由は何か、利便性・時間帯・他の施設を使っているなど、

使う人と使わない人の差は何か。何か手を加えることで使ってもらえるようになるならその視点の意見も必要。

(スポーツ振興課長) 市政に関するアンケートでは体育館を利用していない人は6割強、利用しているとの回答は2割程度。利用していない人がどうしたら利用したくなるのかご意見の聞き方など今後検討していきたい。

(委員) 将来的に学校のプールを使わなくなる可能性がある。その場合、民間や市民体育館を使用しての授業も視野に入っている。施設改修などがあると授業とも関係する。既存の施設なら、季節を夏に限定しなくても活動ができる。連携をはかっていく必要がある。

体育施設のネーミングライツは検討しているのか。

(スポーツ振興課長) 学校のプールに関しては、教育部と情報交換をしている。多摩市や町田市では民間プールを利用して学校からバスで移動して授業を行っていると聞いている。先生の負担などの点でメリットがあるが、移動時間や一般利用者と一緒にできるかなど課題もある。すり合わせながら対応していく。

(委員) 学校でのプールの維持管理が大変である。

(委員) 防災訓練では、トイレの水を流すのにプールの水を使用している。災害時の貯水の役割があるが、なくなってしまう。

(スポーツ振興課長) 災害時の対応についても課題の一つである。

(委員) 水泳は一人でできるスポーツである。学校のプールを、管理を学校以外の組織にして、夏を学校優先にして市民も使えるようにできたらよい。

(スポーツ振興課長) ネーミングライツは、立川公園野球場について12月に募集をし、1社応募があった。コトブキヤスタジアムになる。3年間の契約である。錦町庭球場についても募集をして、1回目は応募がなかったが、2回目の募集では応募があった。また決まったら報告をしたい。

### 3 その他

(スポーツ振興課長) 例年開催している市民体育大会とスポレクフェスタについて、審議会委員の皆様は、大会の参与とさせていただいている。また、大会の案内等をさせていただくこともあるかと思うのでご了承いただきたい。

次年度の審議会は、年3回を予定している。次回は6、7月頃を予定している。

### 閉会